

## Believe in myself

私が、今回の東大見学会を通して学んだことは一つの言葉では言い表せないくらい多く貴重で、自分の価値観を間違いなく大きく変えた。世界のような広い視野でものを見ることができたのと同時に、身の回りの小さな、普段は気付かなかったものの価値に気付くことができた。聞いているだけで心が痛くなるような話や、とてつもない努力が実った瞬間の嬉しさを、見ている私まで幸せになってくるような笑みで伝えてくれた人がいた。全てが私にとって新鮮で興味深く、その人の人生のドラマだった。私が一番強く感じたことは、「私の人生はもう始まっている」ということだった。何を言っているのだ、と思うだろう。しかし私は、自分の人生がスタートしていることに気付かなかった、いや、気付こうとしなかったのかもしれない。つまりは、今までは両親が私達に食事を与えてくれて、家を与えてくれて、学校に行かせてくれた。自分は何もしなくても、何も困らなかった。しかし、それではいけなかった。すばらしい業績を残した方々は、「高校生のうちから何か一つのこと打ち込んだほうがいい。」と言っていて、私は、ああ、もう人生は始まっていて、自分の道を歩み始めているんだなぁと強く感じた。文字だけではあまり伝わらないかもしれないが、これも自分自身で体験することの大切さと難しさを表しているのかもしれない。感じたことは沢山あり、一気に書くのは不可能なので、イベントごとに分けて感想を書いていこうと思う。だが、全てのイベントが私の中に大きな影響をもたらしたのは間違いないだろう。

一日目の最初のイベントは、ディレクトフォースであった。事前の準備では全く質問を思いつくことができず、班のみんなも私も途方に暮れていた。しかし、私達に話をしてくれた方々の話は、何も聞かずにいるのは興味深すぎる話だった。話をするのが上手であったのかもしれないが、私は話にどんどん引き込まれていった。そのとき何も考えなくても、疑問は自然と私の頭を埋め尽くした。20分があっという間に感じられた。時間になっても私達はまだ話し続けた、次の方が私達の班に移動してくるまで。もちろん、IEAの元会長である方による全体に向けての講演もレベルが高く、何より驚いたのは二高生のポテンシャルであった。レベルの高い講義に対してレベルの高い質問、レベルの高い回答。もう、レベルが高いって何だっけ？と、ゲシュタルト崩壊してしまいそうな会話に、こんなにレベルの高い高校である二高にいる誇りと、自分の未熟さに対する焦りを感じた。無事、ディレクトフォースが終わった時には、私は自分の中に言い知れぬ興奮があって、それは勉学を極めて世界の舞台に立つこ

とでしか収まらないものであるとはまだ気付いていなかった。

次にあったイベントは、企業訪問であった。事前のアポは、大成功であったと言えるだろう。私達は赤坂動物病院へ訪問をしたが、大きな心配もなく到着することができた。このイベントは自分達で訪問先を決めたことも大きく、一番充実していたものであったと言っても過言ではないだろう。赤坂動物病院の施設の充実さは、予想の斜め上に行くものであった。東京という地価が非常に高い場所で、充実した施設を整えるには資金だけでなく、配置なども考えなければならない。あんなに小さな場所を、あんなに効率的に使えた柴内院長だからこそ、動物病院を成功に導いたのかもしれないと思った。病院の雰囲気も非常によく、活気が溢れ、笑顔が溢れる場所であった。忙しい中病院の中を案内してくださり、見ず知らずの私達にだれもが皆、笑顔で挨拶をしてくれた。本当に、満面の笑みで挨拶をしてくれるのだ。歓迎していると全身に伝わってくるのだ。きっと、動物達もそれを感じ取っているから、大人しく身をゆだねているのだと思う。どんなに警戒していた動物も、獣医さん達の、柴内院長の手の中では大人しくしていたのだ。今までずっと、どんなところだろうと想像し、わくわくしていた私は今、文字だけではこの感動が伝わらないもどかしさを感じている。順番を待っている間の飼い主や患者にも、話しかけて雰囲気を和ませ、緊張をほぐす様子を見ていると、私が飼い主だったらこの病院を利用したいと強く思った。

私達は沢山の質問を用意して行ったが、時間の都合上、一部だけに絞った。しかしそれでも、柴内院長の回答は私達の心を強くつかんだものであった。具体的なことについては、感想文である主旨から外れるので省略するが、強く納得できたものもあれば、初めて知ったものもあった。私達は仙台でできるボランティア活動を探していたので柴内院長にその主旨を話したところ、仙台のあるボランティア団体に私たちのことを話しておく、とおっしゃっていただいた。仙台でも動物に関わることができるのを、本当に嬉しく思った。

しかし、獣医は決して楽な仕事じゃないとも思った訪問になった。目の前で手術を見せていただいたが、ガラス越しにも緊張が伝わってくるようだった。また、野良犬や野良猫も保護していて、当然それらの動物はしつけをされていない。部屋に出せば、どこにでも排泄をしてしまう。その匂いも、強烈なものであった。それでも柴内院長は嫌な顔一つせずに処理していた。大成功を収めた柴内院長の努力と苦勞が垣間見えた気がして、私は少し弱気になってしまった。

他にも、ここには書ききれないくらい沢山の貴重な体験をした。病院を出る頃には、もう一人の班員も私も、感動と興奮を抑えることはできなかった。ホテルに戻って柴内院長から頂いた著書を読んだ頃には、私達の心の中には夢と

決心が強く根付いた。

その日の夜にはOB・OG 座談会があった。ディレクトフォースと同じようにOB・OGの方々から話を聞いた。これは、私がディレクトフォースで感じたことを裏付けるような形で私の印象に残った。色々な生き方をし、成功を収めた方々には必ず共通点があった。それは、「自分を信じる」ことであった。具体的に書くことはできないが、OB・OGの方々は皆、自分を信じていた。信じた道をまっすぐ進んでいた。私はその姿を美しいと思った。自分も、あんなふうになりたいと強く思った。

二日目は、東京大学のオープンキャンパスに参加した。有名な安田講堂も見て、講義にも参加した。講義で感じたことは、全国から生徒が集まっているなあということだった。当たり前だ、と思うかもしれない。でも、実際に講義していただいた先生や、参加していた生徒が方言で会話をしていると、それを一層強く実感することができた。私も知らないうちに仙台弁を話していたのかもしれないが、私のライバルは二高の中でも、仙台市でも、宮城県でもなく、全国の高校生であることを改めてこの体で感じた。東京大学は施設も充実していて、広い場所に施設や歴史を感じる建物が沢山あり、自分の限界を試せる場所であると感じた。このオープンキャンパスで、私は自分のモチベーションを上げることができ、勉強への意欲を持てるようになったと思う。

私は今回の見学会で学んだことがもう一つある。冒頭にも書いたように、世界のような広いものを見ることができたのと同時に、身の回りの小さな、当たり前のように思っていた「仲間」の存在を強く認識した。それをふと意識したのは帰りの新幹線の中だった。見学会が終わり、落ち着いて二日間を振り返った時、仲間は常に隣にいた。この二日間だけではない。準備の時も、アポの時も、ずっと隣で支えてくれた。足が震えて緊張してアポをとった時、大丈夫と言ってくれた。当日は、お互いをカバーするように動いた。仲間がいたから、私はこの二日間全力で自分と向き合えた。私は本当に感謝でいっぱいの気持ちと、素敵な出会いができた喜びに満ち溢れた。ディレクトフォースの方が、「みんなでやることが大切である。」と言った意味がようやく分かった気がした。新幹線の隣の席に座る友達を見つめながら、私はなんて幸せなのだろうと思った。

この二日間は素敵な出会いをした大切な仲間達とともに、自分自身を本当の意味で見つめなおすいい機会であった。一言でまとめることは難しいが、私はこれから「自分を信じて」自分と向き合い進んでいくことが、ともに歩んできた仲間、家族、先生、私と関わった全ての人への恩返しになると思う。この見学会に参加して本当に良かったと思うし、学んだことが無数にあった。なんだかありがちな言葉でしか表現することはできないが、努力する大切さと自分を信じる心が、なによりも自分の糧になるということを実感できた。自分が本当

にしたいこと、やるべきことを見つけ、自分を信じて進みたい。OB・OGの方々のように芯を持って美しく生きたい。それが、私がこの世に生きる目標であり、生き甲斐となるだろう。